

令和4年度 日本大学 学生FD CHAmMiT NEWS LETTER



【テーマ】

学生が大学に求めるものは人それぞれであり、理想と現実とのギャップに向き合う事で大学教育の改善に繋がりたいと私たちは考えました。

そこで今年度のCHAmMiTでは、コロナ禍での大学生活を経験した今だからこそ、改めて学生一人一人にとっての「大学の在り方」として、資格取得や就職を主と考える「ビジネス」と、自らの学びを深める「アカデミック」の2つに分類し、何を目的に何を勉強しているのかを考えてもらうことで大学教育の改善に繋がってほしいという想いから、

「あなたにとって大学とは、何ですか？」
というテーマを設定しました。

【目次】

テーマ・活動内容 1
セッション1について 2
セッション2・3について 3・4

【活動内容】

4月の募集から始まった私たちのCHAmMiT JOURNEY! 7月から10月の4ヶ月間、学生スタッフが全員参加して、対面・オンラインでのハイブリッド開催のスタッフミーティングを重ね、テーマを考えました。大学生だから持つ視点や観点から、「大学の在り方」について考えてきました。



編集：
令和4年度 日本大学学生FD CHAmMiT 学生コアスタッフ

発行：日本大学 FD推進センター

お問い合わせ：日本大学本部学務部学務課

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24

E-mail：adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp

ホームページ：<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/>



CHAmMiTは今年
で10回目!



ぐんぐんカット
(令和4年度CHAmMiT マスコットキャラクター)

セッション1

大学で、何を、何のためにどのように学びたいと思いますか？

セッション1では、学部混合グループに分かれ、模造紙と付箋を用いて、「大学で学ぶ目的」をみんなで考えて話し合いました。オンライン参加者は、Jamboardを活用しました。

特に「何を」「何のために」「どのように」の3つの項目で分けて、大学で学ぶ目的や現実とのギャップについて挙げていきました。

その次に「良かった点」「問題点」「要望」についても、教職員と意見を交わしながら、同様に深掘りしてもらいました。

3年ぶりの対面での開催ということもあり、コロナ禍後ならではの意見が多く出る貴重な場となりました。

【授業環境の良かったところ】

- ・授業のオンデマンド配信のお陰で、時間が使いやすい
- ・人脈を広げられる
- ・専門的な分野を学べる
- ・対面授業により距離が近く感じ、質問がしやすい

【授業環境の不便なところ】

- ・授業のオンライン化で、グループワークやディスカッション、実技実習が少なく、1・2年次で受講出来なかった部分の補填がない
- ・オンライン化が進み、時間を有効活用しやすくなったのに、重複履修が出来ない。時間の制約のないオンデマンド方式で授業を実施することで、同じ時間割で複数の授業を受講することが可能になるのではないかな？

⇒ 現行では重複履修が出来ない。オンデマンド方式を使えば可能であるが、大学は学修が身につかない等の懸念から実施出来ないの、課題の量や授業の質を上げることにより、重複履修の仕組みが取り入れられるのではないかな

【取り組みのアイデア】

- ・グループワーク、ディスカッション、実技実習が少ない、またはない
⇒ 授業内でどこまで取り入れるかの基準を設け、不可能なものは、どうすれば可能になるかを協議する
- ・教員が授業手法を学ぶ機会がなく、個人任せになっている
⇒ 授業手法に悩んでいる教員にアドバイス出来るようにFD活動を実施する。また、ガイドライン等を設け、明文化することで学生及び教職員が授業に組みやすくする
- ・オンライン授業や対面授業の両立をしてほしい
⇒ 継続的に学生の意見を取り入れることにより、授業を良いものにしていく

【何を何のためにどのように】

- ・将来の為に国家資格を取得する
- ・専門的なことを深く学ぶ
- ・発想力やコミュニケーション能力の獲得
- ・社会貢献するため
- ・課外活動や自分の専門外を学ぶ



セッション2

思い描いた学生生活を送れていますか？

セッション3

あなたにとって、大学とは何ですか？

セッション2では、セッション1で考えた、大学生活における問題点の整理の位置づけとして、学部ごとにグループを組み、「思い描いた大学生生活を送れていますか？」というセッションテーマで、学生・教職員の両者の意見から改善できる問題点の整理と現実の差をみんなと考えました。そして、意見をJamboardにまとめ、発表してもらい、順位付けを行いました。

セッション3では、昨年の学部改善報告書の読み合わせを行い、セッション2でグルーピングした内容から現状の分析を行いました。その後、緊急度、優先度をグループで判断し、優先度の高い順に改善策を話し合いました。「学部を求めること」、「日本大学全体を求めること」の2つに分けて提案書作成をしてもらいました。

【満足】

- ・ 専門的な講義が多い
- ・ 他学部の授業が受講できる
- ・ オンライン併用の授業が増えて、履修登録の幅が広がった
- ・ 将来に結びついたより実践的な授業が受けられる

【不満足】

- ・ 授業によって評価基準が異なる
- ・ 学部内及び学部間の交流がない

【現状の分析】

- ・ 他学部、他学科との交流の機会、イベントが少ない
- ・ 学内の学修のためのスペース、設備の不足
- ・ 授業の質に差がある
- ・ オンライン授業、対面授業による出席や課題提出の方法の違い
- ・ 課題のフィードバック不足
- ・ 教員と学生の距離が遠い



セッション3

あなたにとって、大学とは何ですか？

【理想の学部への提案】

- ・他学部、他学科との専門的な内容を含んだ連携授業を行う
- ・新しい学修スペースの敷設、使用可能な空き教室の明確化、回線の強化
- ・教員同士の連携による授業の質向上
- ・教養科目など学部間での合同開講
- ・オンライン授業、対面授業のそれぞれの良さが活かせる授業の提供
- ・課題のフィードバックを受けられる期間の設定
- ・T A（大学院生）の活用
- ・教員と学生との意見共有により共通理解を図れる機会を設ける

など、多くの意見を集めました。

【理想の大学への提案】

- ・相互履修制度(全学部共通の授業)を充実させる
- ・学生間の仲が深められる機会を設ける
(CHAmmiTやワールドカフェの通年開催)
- ・全学部共通のチャットルーム(教員・学生)の提供
- ・学部学科問わず、学生間交流、共同活動できる掲示板
- ・システムの統一化
- ・通信環境の安定化

など、多くの意見を集めました。



これらの学部提案書を基に、各学部において学生・教員・職員の三者で協議し、学修環境の改善を図っていきます！

(商) 学部	②学部を「理想の学部」にするための提案	③日大を「理想の大学」にするための提案
①現状の問題点の分析 1. 学生において、勉強する喜び・目的を見失ってしまったり、入学後に孤立してしまい授業を受けなくなってしまいうケースが見受けられます。 2. 全学部や商学部において、学生同士で交流する機会を提供しても、参加する人が集まりにくいと思います。 3. 本来受けたかった授業でない場合、積極性がなくなる学生がいます。 4. 大人数の授業の場合、先生との距離が遠くなってしまいます。 5. カラーコピーの場合、一日のコピー数制限によって、印刷が途中でできなくなる場合があります。 6. レポートを提出してもフィードバックがないことがあり、次にレポートを書く際の改善につなげられません。 7. オンライン授業において、他の学生の質問などを新しい学びに繋げたいです。	②学部を「理想の学部」にするための提案 1. 大学での学びが将来に繋がることを知らずとも、実際に社会人の方からお話を聞く機会を設けてほしいです。また、入学後に孤立してしまいう学生を救済するため、プラチナスター制度で希望した先生に先着がつく制度がある、履修などでの不明な点を相談しやすいなり授業への出席を奨励してほしいです。 2. 参加する楽しさを知っていただくためにも、みんなが参加しやすい科目などに行くと良いと思いました。一度参加していただくことで、目的が同じ学生に出会うことができ、楽しいと気付いてもらえると思います。 3. 可能な限り、人気科目の時間数を増やすなどしてみんなが取りたい授業をとれるようにした上で、学生の意欲向上に繋がると思っています。 4. アワーを取る点などにおいて、オフィスアワーをより活用しやすいように改善していただきたいです。 5. 一日のコピー数制限をなくしていただきたいです。 6. 採点基準などのガイドラインを提示していただければ、レポートの改善に繋がります。	③日大を「理想の大学」にするための提案 1. 年齢が近い社会人の方と交流する機会を設けてほしいです。交流することで、大学で学んだことが将来に繋がると再認識する機会になり学習意欲の向上につながると思います。 5. コピー数制限をなくしていただきたいです。 6. 各先生にレポート採点のガイドラインを提出していただければ、良いレポートが作成できるようになると思います。

(経済) 学部	②学部を「理想の学部」にするための提案	③日大を「理想の大学」にするための提案
①現状の問題点の分析 講義 ・就活向けの講義が少ない ・通年しか履修登録できない ・人数が多く、教室に入らない サービス ・先輩後輩や他学部間の交流が少ない ・課題提出の方法統一ができていない ・シラバスに授業の詳細が書かれていない ゼミ ・定員が埋まっている ・ゼミの情報が入ってこない ・広報が行き届いていない 設備 ・通信が悪い ・教室数が不足している。 ・オンライン授業が学内で受講できない。	②学部を「理想の学部」にするための提案 講義 ・科目名目の講義を増やす ・履修者数に偏りが出ないように、曜日時間を調整する。 ・学生に人気の講義を次年度は増やす サービス ・学内・外ともに交流機会を増やす ・可能な範囲で先生方に統一していただく ・授業アンケートを学生が見れるようにする ・学内に授業評価が見れるツールを作る (みんなのキャンパスのような) ゼミ ・同じ講義を週に何回か行う、多様化 ・ゼミの情報を頻繁に更新する。 設備 ・Wi-Fiの強さを高める ・オンラインブースの数を増やす。	③日大を「理想の大学」にするための提案 講義 ・相互履修制度を充実させる。/online化 ・教員と学生の相互に評価制度を設ける。 サービス ・学部の垣根をこえて交流機会を増やす ・学部間で、相互にサービスを利用できるようにする ・学部関係ない講義を作る(オンラインだと参加しやすい) ゼミ ・志望動機などを聞いて個人を尊重し合う ・学生と教職員との連携を強化する ・説明会以外にも先輩と交流できる場を設ける 設備 ・個別/onlineブースの充実 ・ネットワーク回線を増強する。

(危機管理) 学部	②学部を「理想の学部」にするための提案	③日大を「理想の大学」にするための提案
①現状の問題点の分析 ・教授同士の意識の差、学生同士の意識の差が生まれているため プリンター(印刷)・プリンターと印刷機の名前が一致しない ・インク、紙の補充ができていない ・資料配付のやり方が統一されていない	②学部を「理想の学部」にするための提案 ・順位発表を行う ・課題やテストのフィードバックを行う →やる気の向上 ・プリンター名を変える ・プリンターの管理を生徒に移行する ・資料配付の統一化	③日大を「理想の大学」にするための提案 各学部で学生・教員の成績などの表彰 生協の意識が悪い人がいる一教授の意識にもそれが影響する →そもそも生協の意識向上のために、テストなど毎年のフィードバックなど実施されるべきです。 学部同士の研究発表会 授業資料講座の開催 →授業資料作成のスキル底上げのため

(生物資源科) 学部	②学部を「理想の学部」にするための提案	③日大を「理想の大学」にするための提案
①現状の問題点の分析 【学習環境】 ・Wi-Fiが弱いところがある ⇒電子資料が多いため、Wi-Fiがないと不便という学生側の事情がわからない。 ・学費が高い ⇒金額の負担が大きい。 ・オンラインの授業時間が違う ⇒先生間の情報共有不足 ⇒オンライン・対面の両立をしてほしい ⇒学生側にも立っていない。 ・レポートの採点基準があいまい ⇒先生のマインドが古い ⇒外部の先生が必修の授業をもつ ⇒単位を落としてしまったときに先生に聞きづらい。 ⇒オンライン方式に慣れてほしい。 ⇒数年たったため、慣れてほしい。 学生側のことを理解してほしい。 ・授業のやり方を学ぶ機会がなく、教員任せになっている。 ⇒授業のやり方について先生にアドバイスできるようにしたい。または、やり方を明確化してほしい。	②学部を「理想の学部」にするための提案 ・以前は教員に依頼のみで履修者が少なかった。教員にも、もう少しほしい。 ・グループディスカッションなどを利用した授業が少ない。 ・以前はできていたのに、現在では同じ時間に二重履修ができないのでできるようにしてほしい。 ・学科ごとの自習室が欲しい ・研究室の人数を減らす ・対面の実習を増やしてほしい ・コピーが有料な。受講するにおいて、コピー等必要なものは学生が負担が大きい。 ・すべてのばいWi-Fiを設けてほしい ・いろんな施設があるのは活かして欲しい ・図書館の本を増やしてほしい ・ハイブリッドで対面参加の利点を作ってほしい。 ・気候に入れる自習室みたいなのがほしい ・授業に人数制限があるため、席が分けた場合に授業時間前後の確保など。 ・先生や科目によって配信される授業時間や課題の量の差が大きいこと ・他学部や他学年と交流する機会が少ないこと ⇒授業に間に合わないのでは履修を食べる人数を増やしてほしい、値段も下げほしい ・各科目で、内容・履修方法・採点方法・履修基準について個別に説明を頻繁に更新してほしい	③日大を「理想の大学」にするための提案 ・多学部との交流が少ない ・留学の機軸、制度が少ない ・学費が高い ・学生がオフキャンパスで大学へ意見を伝える機会を増やしてほしい ・学部間の長期的な交流が少ない ・他学部の授業を履修したい。 ・OB・OGとの関わりを増やしたい。 ・他学部ともしっかり交流したい ・コピー機やシステムが古いため、大学内で一定量のコピーを無料にしてほしい ・教職員に対しての研修を受けてほしい